

京都市南西部の弥生時代の遺跡 中久世遺跡

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 渡邊都季哉

はじめに

京都市南区に所在する中久世遺跡で、多数の竪穴建物を検出し、多数の弥生土器・石器が出土しました。調査の紹介と、周辺遺跡との比較を通して京都市内の弥生時代について考えます（図 1）。

1. 中久世遺跡概要と 2023 年度の調査

A. 中久世遺跡とは

杉江義朗氏による遺跡の周知→1970 年代以降、発掘調査の増加
拠点集落としての評価もある。
広範な遺跡範囲の一方で、発見されるのは方形周溝墓と溝・自然流路のみ。

B. 2023 年度調査（図 2 ～図 7）

遺構：竪穴建物 10 棟（中期中葉 2 棟、中期後葉 4 棟、後期後半 4 棟）
中期中葉は円形、中期後葉は円形・多角形・方形、後期後半は方形土坑多数（中期中～後葉）：
炭化物・焼土多数

遺物：弥生土器（搬入品：近江・摂津・河内）、打製石鏃・磨製石鏃、石包丁、扁平片刃石斧、石鋸・
石錐・砥石・敲石・石剣など

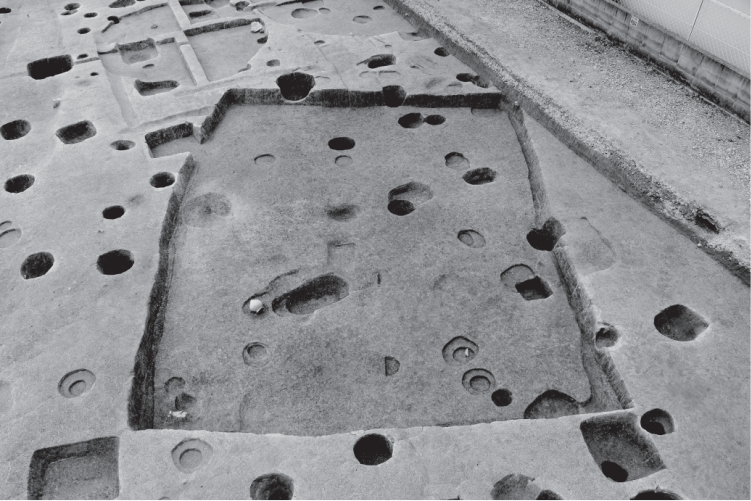
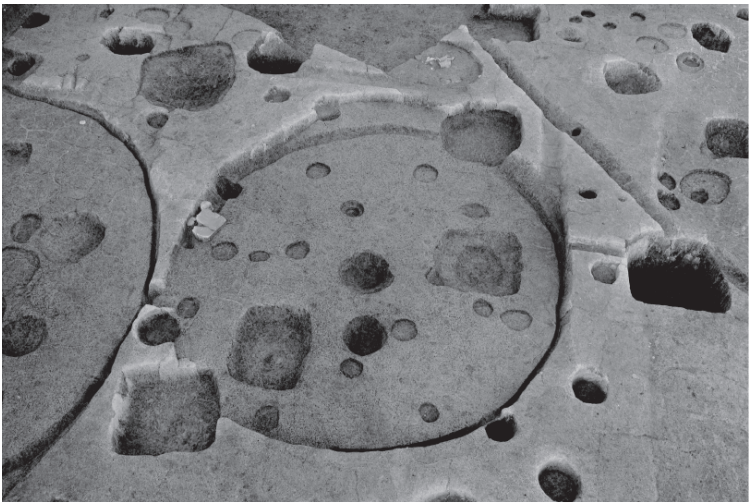


図 2 2023 年度調査遺構写真（左上：竪穴建物 310
左下：竪穴建物 250 上：土坑 400）



図 1 中久世遺跡と周辺の遺跡（1：100,000）

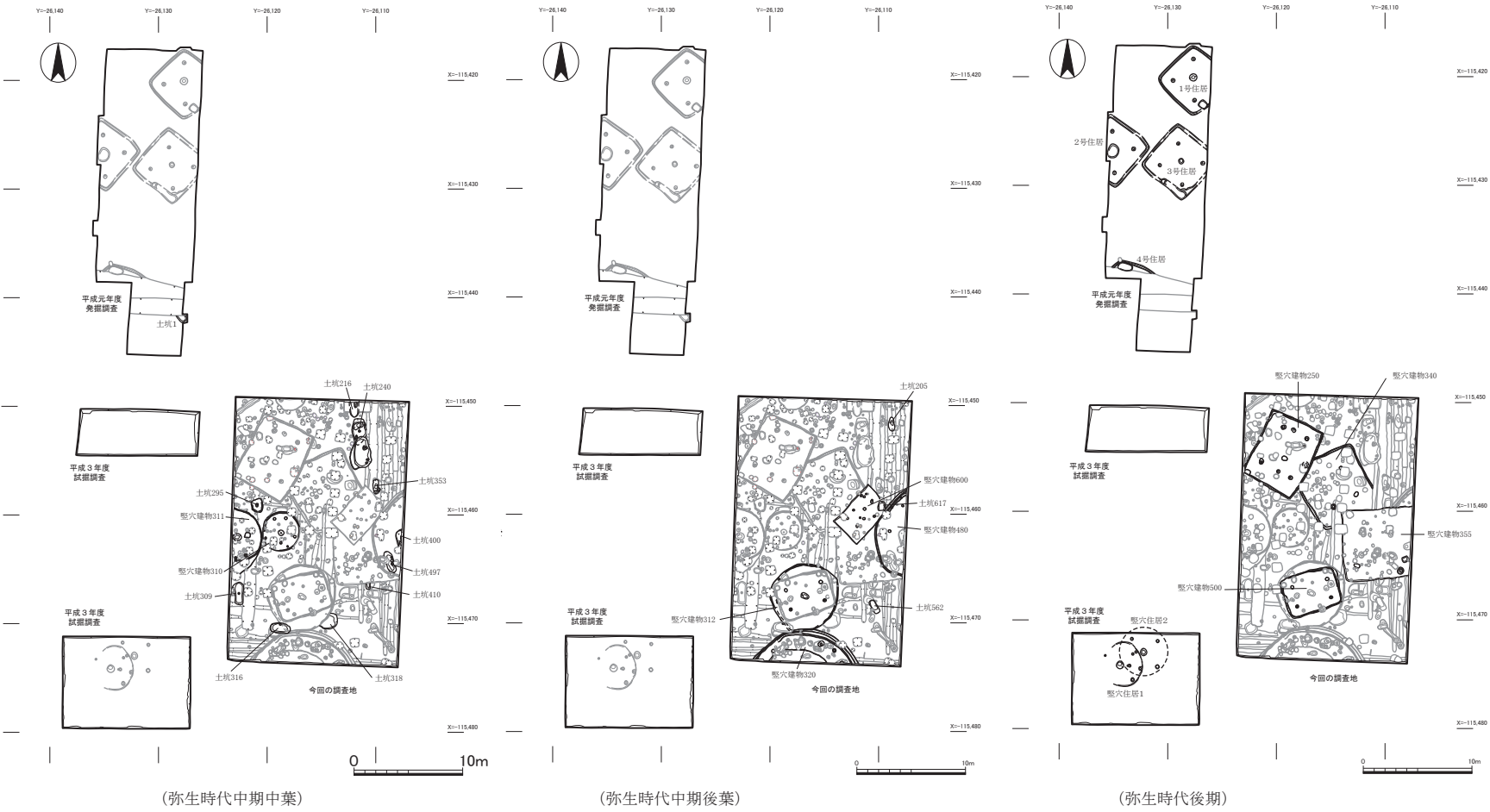
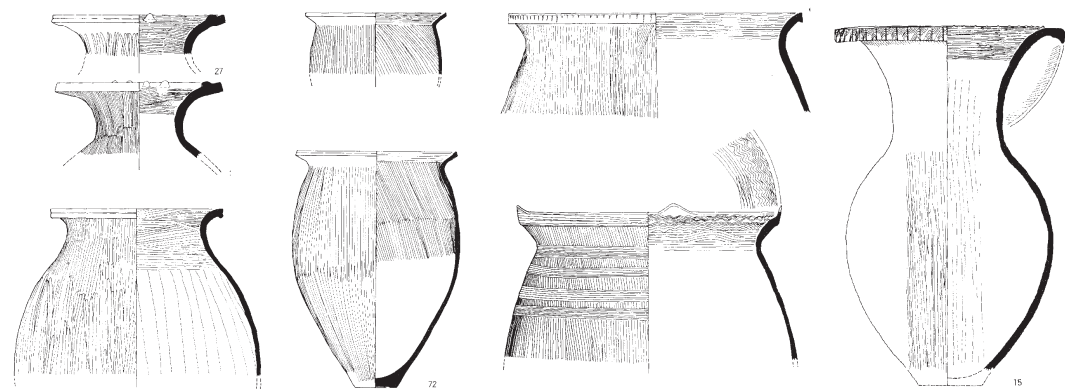
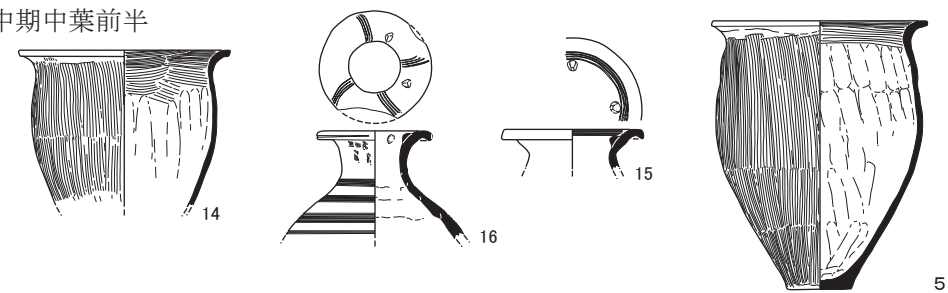


図 3 2023 年度調査 遺構の変遷図（1：600）

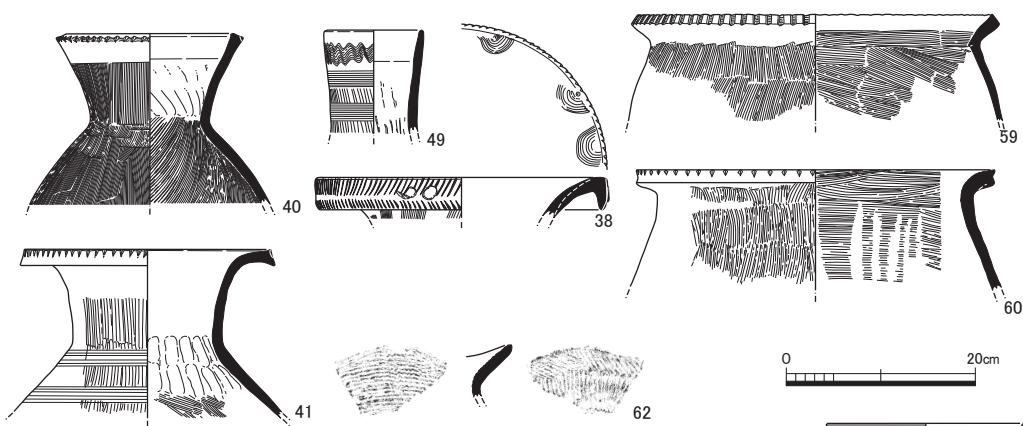
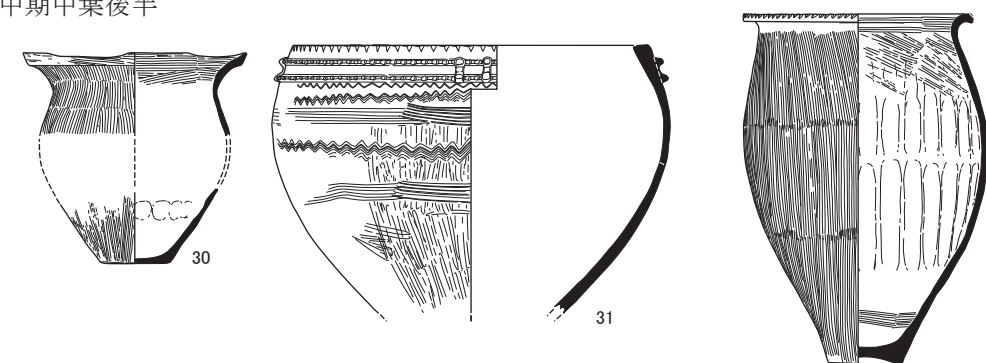
弥生時代中期前葉



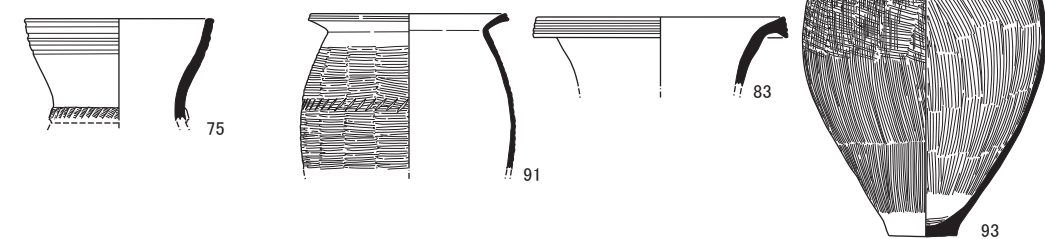
弥生時代中期中葉前半



弥生時代中期中葉後半



弥生時代中期後葉



弥生時代後期後半

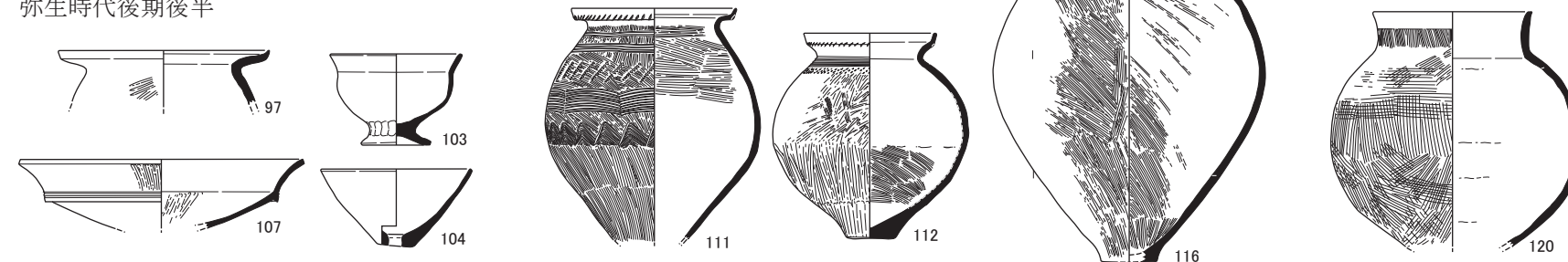


図4 中久世遺跡出土弥生土器（1：8）



図5 中久世遺跡出土弥生土器写真

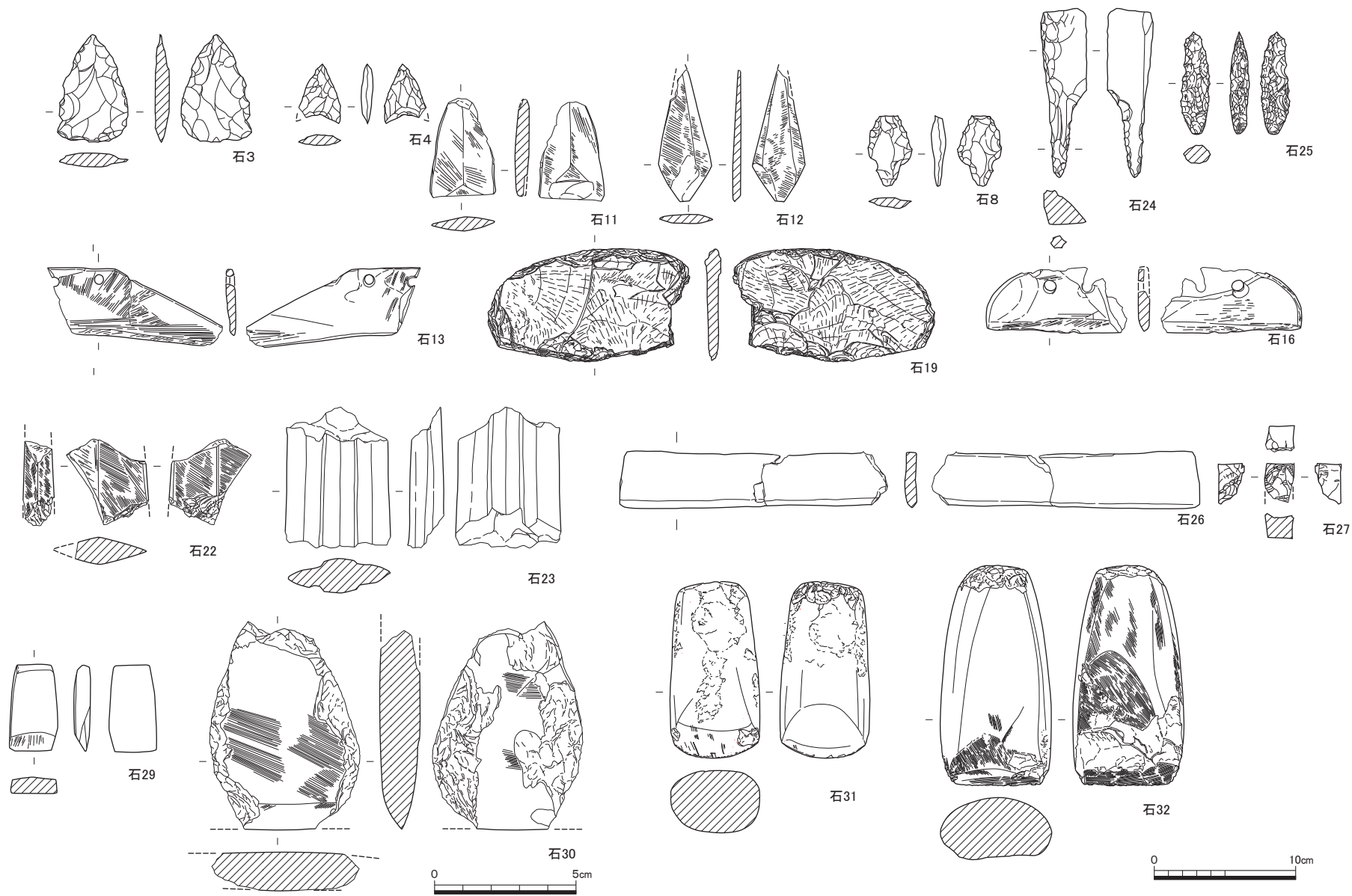


図6 中久世遺跡出土弥生石器（1：2、石31・32は1：4）

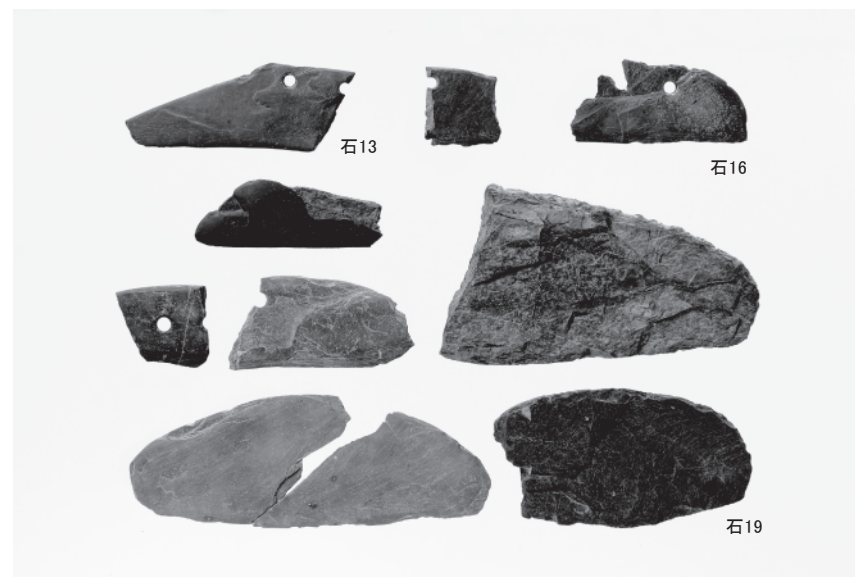
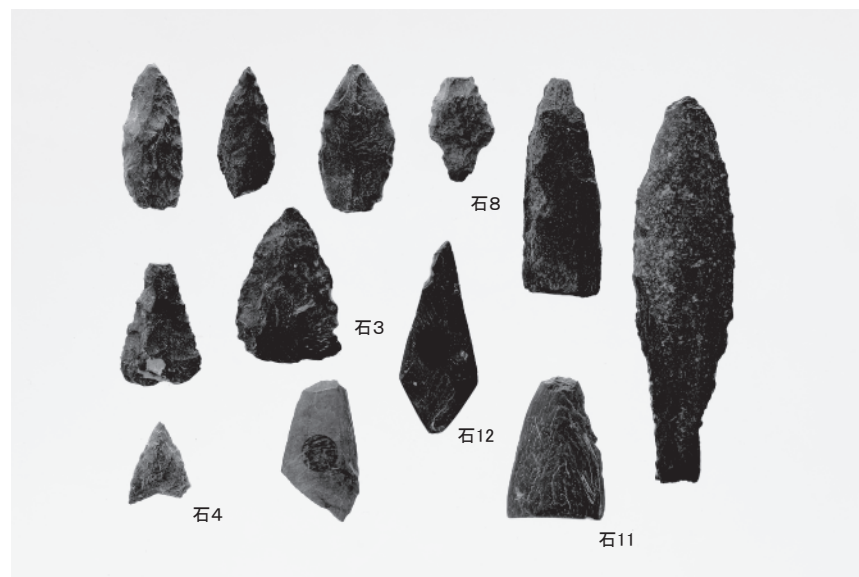
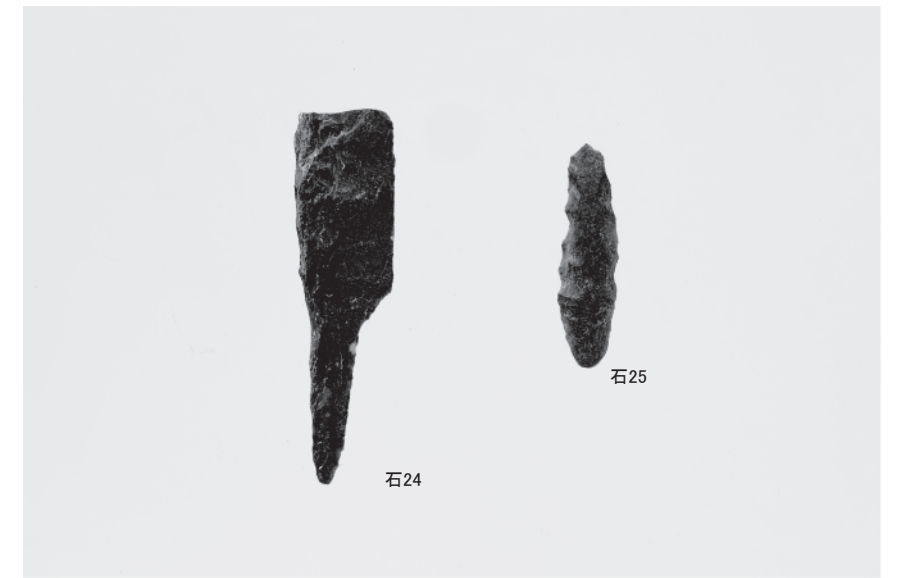


図7 中久世遺跡出土弥生石器写真

2. 中久世遺跡の周辺（図 11）

A. 中久世遺跡の過去の調査

竪穴建物：調査地周辺に密集。ただし、いずれも弥生時代後期
方形周溝墓：竪穴建物から離れた場所にある（図 8）

B. 近隣の遺跡

①上久世遺跡

弥生時代中期後半の竪穴建物 1 棟以上、溝 1 条（環濠か）（図 9）
後期の竪穴建物 1 棟以上

②大藪遺跡

弥生時代後期の竪穴建物 4 棟、棟持柱建物 2 棟、方形周溝墓 3 基、集落内を区画する溝（図 10）
棟持柱建物の年輪年代は A.D. 51 年 + α
近江系の土器が多く出土



図 8 中久世遺跡方形周溝墓



図 9 上久世遺跡竪穴建物

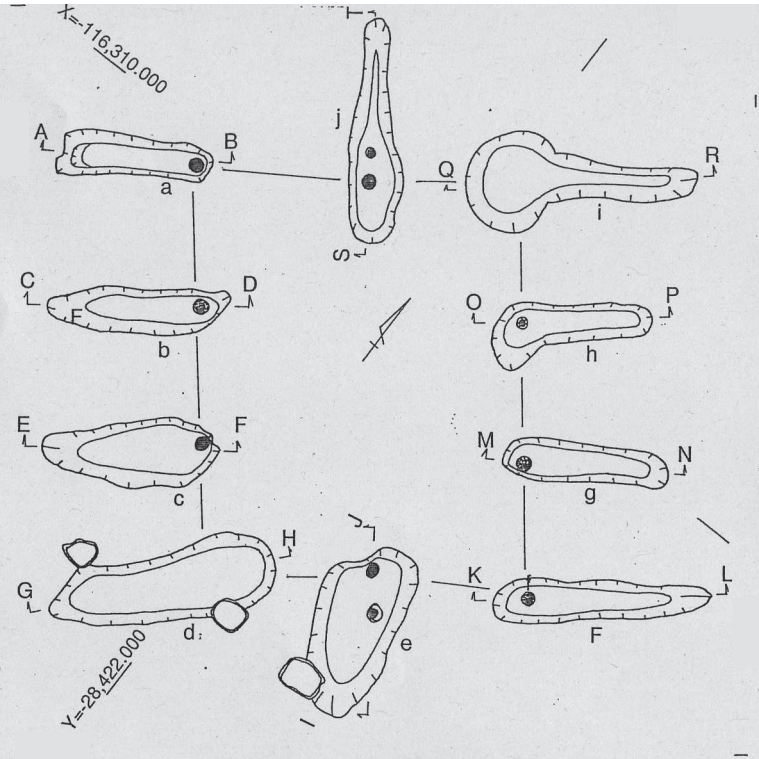


図 10 大藪遺跡棟持柱建物

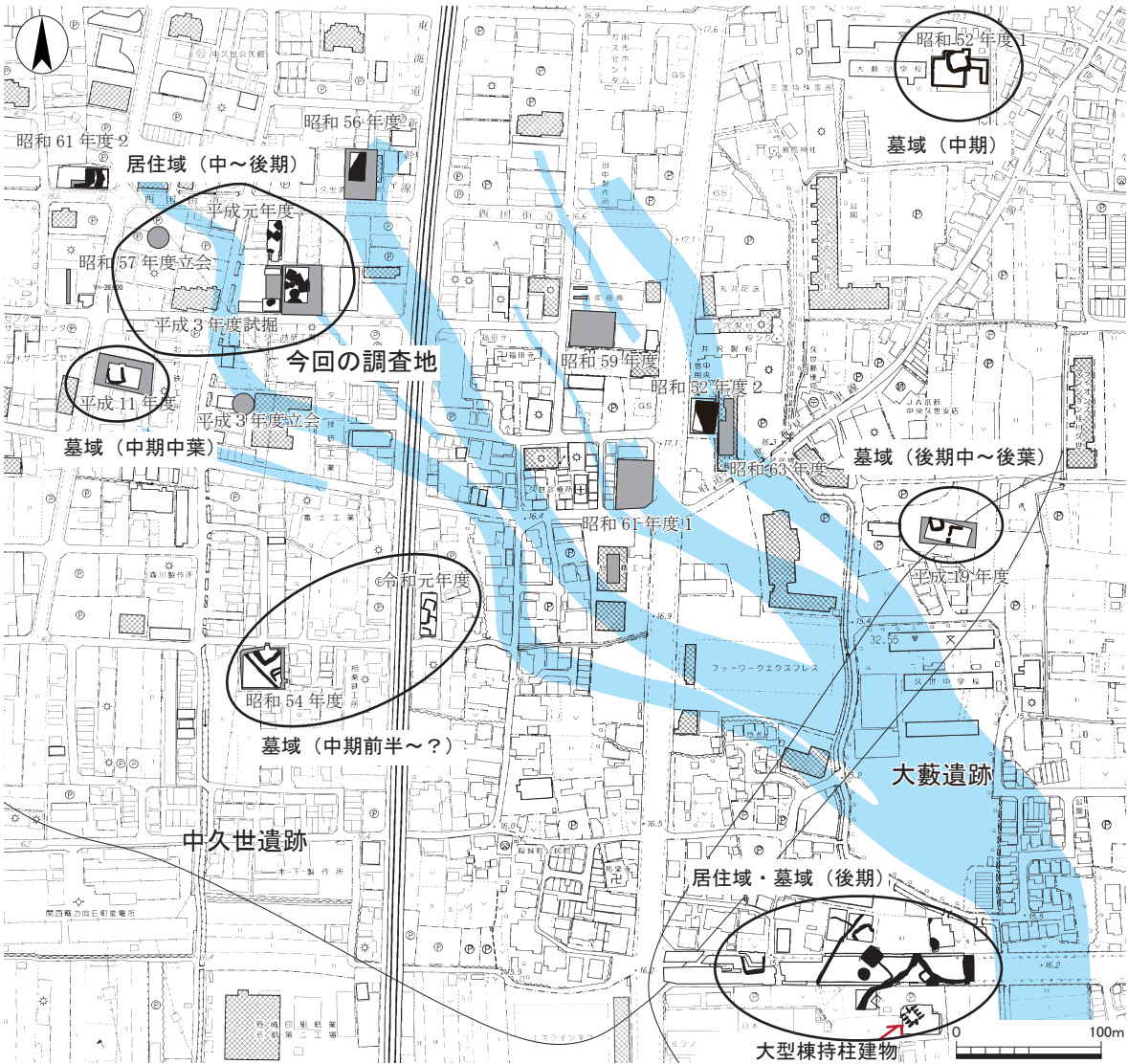


図 11 弥生時代の中久世・大藪遺跡遺構分布（1：5,000）

3. 乙訓地域における中久世遺跡 (図 11)

弥生時代前期：鶏冠井遺跡・雲宮遺跡・上里遺跡・森本遺跡など、縄文晩期に平地部へ進出した集落からの継続。

雲宮遺跡：環濠をもち、環濠内には無数の土坑や小穴（住居か）。環濠の外には方形周溝墓と土器
棺墓。

上里遺跡：弥生時代前期の竪穴建物、掘立柱建物、土器棺墓。

弥生時代中期：集落が増加。神足遺跡が拠点集落の代表。鶏冠井遺跡からは中期前葉の銅鐸鋳型が出土。

鶏冠井遺跡：北西から南東に向かって流れる自然流路を挟んだ二つの居住域と居住域の周りの方形周溝墓。弥生中期前葉の銅鐸鋳型出土。

神足遺跡：環濠をもつ。環濠内の居住域と、方形周溝墓を挟んだ居住域に分かれる（図 12）。

青銅器生産：大陸から瀬戸内海を通じる。瀬戸内海から淀川を通じて東方へ。播磨地域の土器などが関東の遺跡から多く出土する（長友・石川・深澤編 2022）。

遺構検出の疎密から、4つのエリアを設定(伊藤 2013)。神足遺跡を中心とするエリアA、鶏冠井・東土川遺跡を中心とするエリアB、今里遺跡を中心とするエリアC、中久世遺跡を中心とするエリアD(伊藤 2013、図 13)

弥生時代後期：前半は集落数が減少。神足遺跡も後期には衰退する。中久世遺跡でも後期前半の遺構・遺物は見られない。後半は激増。

小結

弥生時代中期までの拠点集落が解体。「乙訓低地帯遺跡群」と呼ばれるように、桂川右岸近辺に後期の遺跡が広がる。長岡丘陵の段丘側も「段丘帯遺跡群」として、大規模な集住は見られない。弥生時代後期は、それぞれの遺跡に散住的な活動が確認される。

中久世遺跡は流路・土坑出土土器からみると、弥生時代中期前葉には成立。中期前葉の竪穴建物は未確認だが今後見つかる可能性は十分にある。鶏冠井・雲宮遺跡等から分派したか。弥生時代中期を通して竪穴建物が継続的に営まれる。弥生時代後期前半は、遺構・遺物は見られなくなるものの、後期後半には再び生活痕跡が多く認められるが、他の遺跡と同様の一般的な集落の一つととらえられる。

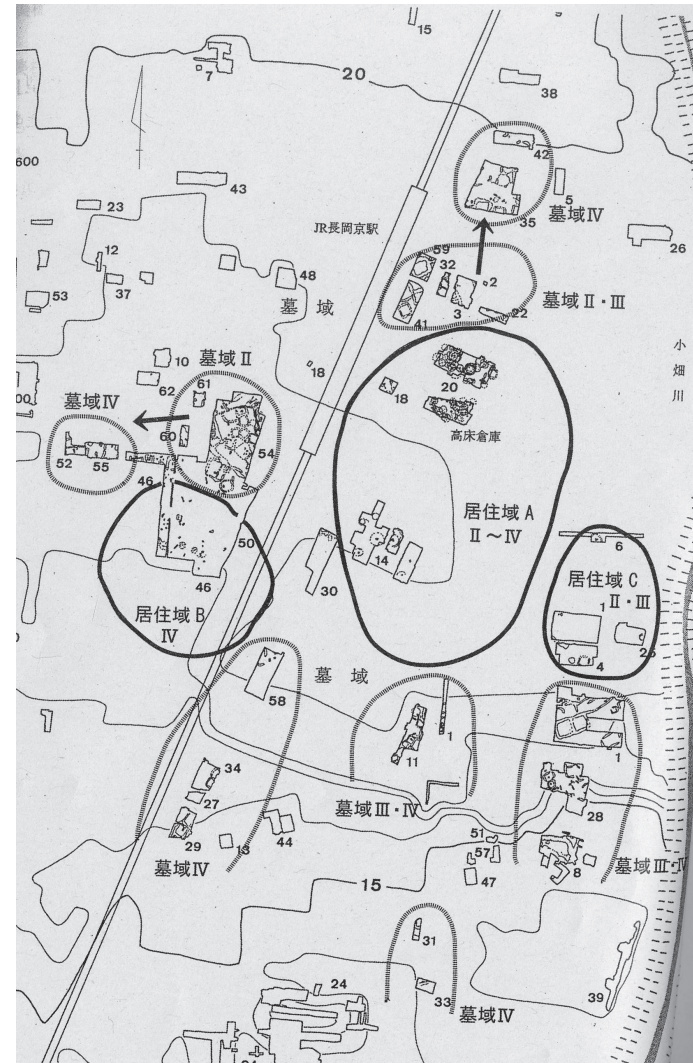


図 12 神足遺跡遺構分布（國下 2013）

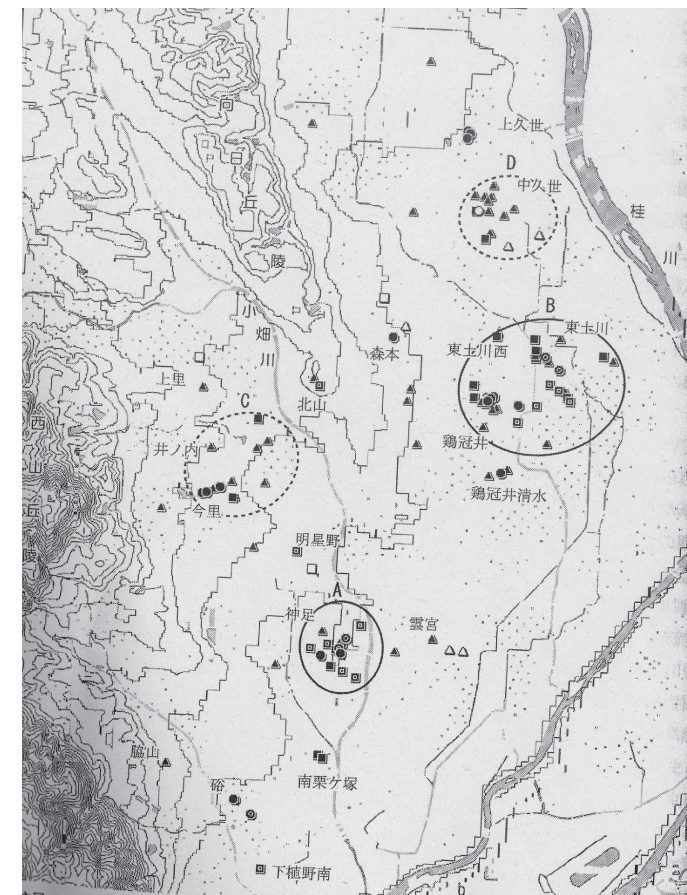


図 13 乙訓地域の弥生時代中期遺構検出状況（伊藤 2013）

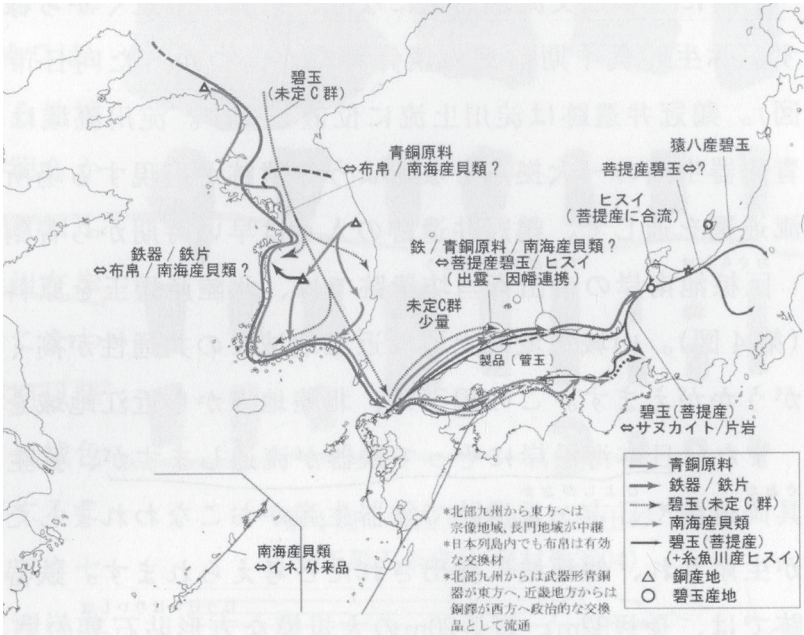


図 14 弥生時代中期初頭～中葉の環黄海東部交易網（中村 2022）

表 1 山城北部地域の集落動向（桐井 2022）

地域	遺跡名	標高 (m)	立地	遺物のみ			遺構・厚い包含層あり			住居の裏5.1		後期～庄内層の特記事項
				中期			後期			庄内		
				Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	前期	中期	後葉			
山科盆地	中臣	34	段丘	方形周溝墓			9/0	6/0	11/0	27/0		
	左義長町	37	扇状地					36/0			1/0	
	岩倉忠在地	113	扇状地								11/1	
	松ヶ崎森寺下層	64	扇状地									
盆地北部	植物園北	66	扇状地						1/0	49/0 48/0		庄内:多角形2
	安藤実成神社跡	60	扇状地		---		---					
	上京	62	扇状地									
	内膳町	59	扇状地									
	北野	67	段丘									
	祭東・風埦	35	扇状地					2/0	1/0			
	二条城北	37	扇状地					1/0				堅穴は1棟のみで、多角形。
鴨川左岸	岡崎	49	扇状地						周溝墓	1/0		近江・東海系、ノリス輸入あり
	六波羅森寺跡下層	37	扇状地									
	法住寺跡下層	36	扇状地							10/0		
	法住寺跡下層	32	扇状地				溝・土坑				周溝墓1	後期の方形周溝墓とされる溝があるが不明
鴨川右岸	深草	23	段丘		溝							
	島野・島田屋下層	14	氈蓋平野			1/0	溝・土坑				1/0	前期後半の前方後円墳、埴輪出土
	下鳥羽	12	氈蓋平野				土坑			3/0	12/0	
	下三橋	12	氈蓋平野		---			---				
	壬生	29	扇状地									
	堀川御池	35	扇状地									
	烏丸御池	34	扇状地									
桂川左岸	烏丸綾小路	37	扇状地		溝・土坑		周溝墓	---	3/0	3/0	4/0	弥中～弥後:環濠 弥中:方形周溝墓
	烏丸町	35	扇状地									
	東市跡	33	扇状地									月影式甕輸入
	近京六条一坊七町											
	近京・名勝 嵐山	37	自然堤防									
桂川左岸	嵯峨野高田町	32	自然堤防			6/0		1/0				
	村ノ内	39	段丘									
	和泉式部町	36	扇状地			1/0				8/0	14/0	
	山ノ内	28	扇状地									
	西ノ京	33	扇状地									
	西京橋	27	氈蓋平野		周溝墓4	3/0		6/0	16/0	6/0		弥後:金屬器生産 庄内:方形周溝墓
	唐橋	19	扇状地		周溝墓6					土坑	1/0	

4. 北山城地域と比較して

・鴨川以東:北白川遺跡群など縄文時代晩期からの遺跡が継続。弥生時代前期の水田・堅穴建物など。

中期には衰退。後期から活発化（岡崎遺跡など）

・御室・花園地域：弥生時代中期から活動の痕跡。

・鳥羽・伏見地域：弥生時代前期に下鳥羽遺跡が出現。中期前半には深草遺跡が成立し、近江系の土器が多く出土。

・鴨川以西・桂川以東:弥生時代中期前半に烏丸綾小路遺跡が成立。河内・東海など各地の土器が出土。

・山科盆地：中臣遺跡が弥生時代中・後期の中心的な集落。

・北山城地域の特質（伊藤 1995）

集落の拡張に伴う分村関係は希薄。やや継続性のある集落の周辺で、散発的・断続的に地点を違えて小規模な集落がみられる。地域総体としての遺跡の継続性は認めがたい。

中久世遺跡を含む乙訓地域は、神足遺跡を代表とする巨大な拠点集落をもち、中期後半まで継続的な居住が認められる。後期後半に集落が散在する様相に移り変わる、京都盆地中央部とは異なる傾向。

おわりに

中久世遺跡内で明確な居住域を検出。明確な弥生時代中期の堅穴建物の検出ははじめて。

弥生時代中期は乙訓地域の北東部の核となる遺跡となり、拠点集落解体後の後期後半も集落が存在する居住地を検出した。

参考文献

伊藤淳史 1995 「京都盆地の弥生時代遺跡」『京都大学埋蔵文化財研究センター紀要XI(京都大学構内遺跡調査研究年報 1992 年度所収)』京都大学埋蔵文化財研究センター

伊藤淳史 2000 「山城地域における弥生集落の動態」『みずほ』32 号 大和弥生文化の会

伊藤淳史 2013 「集住から散住へ ―弥生後期「乙訓低地帯遺跡群」への評価―」『弥生研究の群像』みずほ別冊 七田忠昭・森岡秀人・松本岩雄・深澤芳樹さん選暦記念 大和弥生文化の会

柏田有香・古川 匠・浅井猛宏 2014 「山城地域」『集落動態からみた弥生時代から古墳時代への社会変化』古代学研究会 2014 年度拡大例会・シンポジウム 古代学研究会

桐井理揮 2022 「山城南部における弥生後期の集落動向」『弥生後期社会の実像―集落構造と弥生社会―』古代学研究会

國下多美樹 2013 「集落形成にみる地域の個性断章 ―乙訓らしさとは何か―」『弥生研究の群像』みずほ別冊 七田忠昭・森岡秀人・松本岩雄・深澤芳樹さん選暦記念 大和弥生文化の会

長友朋子・石川日出夫・深澤芳樹編 2022 『南国東の弥生時代』吉川弘文館

中村大介 2022 「楽浪郡設置以前の黄海東部交易と弥生文化」『南関東の弥生文化』吉川弘文館

森岡秀人 1990 「山城地域」『弥生土器の様式と編年』近畿編Ⅱ 木耳社